

# ellipse

[エリプス]

## TOPICS

### 講演会

### 「ESD としての防災教育」

#### 附属学校園合同研修会講演会

#### 「ESD としての防災教育と東日本大震災」より

楕円(ellipse)には焦点がふたつあります。男性中心の社会から、女性と男性がそれぞれに中心(焦点)となる社会を目指すという思いを込めて、誌名を「エリプス」と名づけました。



ワ・タ・シ

深津千鶴 FUKATSU, Chizu イラストレーター  
東京生まれ。1988年、お茶の水女子大学文教育学部地理学科卒業。在学中に、『週刊朝日』誌上にて「山藤章二の似顔絵塾」特待生となる。広告代理店勤務を経て、1990年より作家活動を開始。書籍装画、CDジャケットなど多く手がける一方、エッセイ執筆、壁画制作などの活動を展開している。

## REPORT

### 共催講演会

「子育てに『もう遅い』はありません  
～心と脳の科学からわかる親が本当にすべきこと～  
(内田 伸子 氏)

### 夢のつばさ♥プロジェクトニュース

### 男女共同参画促進事業

「女性のためのパソコン教室

スキルアップで仕事に強くなるう!!

## INFORMATION

### お茶の水女子大学イベント情報

事務局よりお知らせ



特定非営利活動法人

お茶の水学術事業会

# ESD としての防災教育

## 附属学校園合同研修会講演会

### 「ESD としての防災教育と東日本大震災」より



2013年8月22日に開催されたお茶の水女子大学学校教育研究部と附属学校部主催の研修会より、東日本大震災後の宮城県気仙沼市の防災教育についてご紹介します。この研修会は、大学並びに附属学校園の教職員、学生、院生を対象としたもので、気仙沼市の教育委員会からお二人の先生をお招きして「ESDとしての防災教育」をテーマとしたお話を伺いました。

気仙沼市教育委員会とお茶の水女子大学は、児童生徒の育成や地域社会の連携・発展に寄与することを目的として、2012年11月に「包括的連携協定」(\*)を締結し、共同して研究会を行ったり、夏休みに大学の教職員と学生が現地を訪問したりするなど、交流を深めてきました。

## ESD としての防災教育

ESD (Education for Sustainable Development, 持続可能な開発のための教育) とは、「一人ひとりが、世界の人々や将来世代、環境との関係性の中で生きていることを認識し、行動を変革するための教育」、すなわち、地球規模の環境破壊、エネルギーや水などの資源保全など、現代社会のさまざまな課題と身近な暮らしを結びつけ、未来に向けて力を合わせて取り組んでいけるような力や考え方を育てる教育や活動のことです。

宮城県気仙沼市では、「魚食健康都市宣言」「国際水産文化都市宣言」「森は海の恋人運動」「スローフード都市宣言」など、豊かな自然環境を生かした ESD が推進されていますが、防災教育もまた ESD の一環として位置づけられています。

### 講演1

## 「ESD としての防災教育と東日本大震災」

菊田裕幸先生 (気仙沼市教育委員会指導主事)

菊田先生がまず示された1枚の写真には、避難所となった市内の中学校で、体育館に畳を敷いて毛布などを配ったり、避難者の名簿を作成したりする生徒達の姿が写されていました。

2012年12月に大きな地震が発生して津波警報が発令された際、生徒達は自ら率先してこのようなことを行ったそうです。菊田先生は、その背景にある気仙沼市の防災教育とは?ということ、お話をしてくださいました。



ESD の観点からみると、防災教育は、危機管理として命を守る訓練ではなく、「地域とのつながり」や「未来とのつながり」を意識しつつ、学校教育として、人を育てていくものと考えられます。

そのイメージは図1に示すとおりですが、東日本大震災では、NPO、NGO、ネットワークといったものが大きな力を発揮したことから、その後の防災教育では、従来の「自助」「公助」「共助」に加えて、「N助」が新たな視点として取り入れられたそうです (図2)。

気仙沼市の防災教育は、(1)カリキュラム、(2)教材、(3)教員研修を3本の矢として、市の教育研究員(現場の10名の先生方)を中心に進められてきました。

研究員は、防災教育に関する授業実践を踏まえて、多様な状況に対応する防災計画を提案するチームと、教育課程に位置づけた防災教育及び復興教育を提案するチームとに分かれ

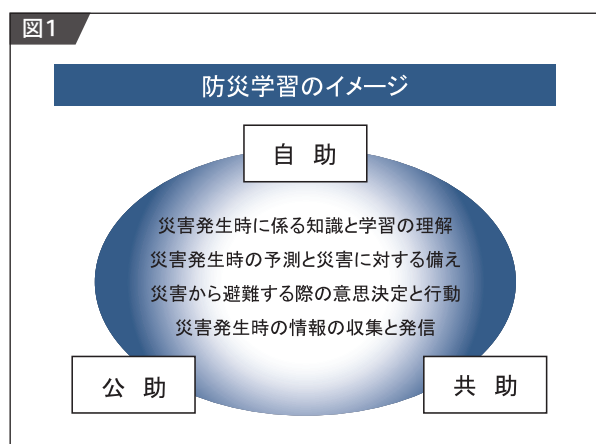


図 2

## もうひとつの「助」:3つのN

N : NGO NPO

N : ネットワーク

N : NEW NEXT

て研究を行いました。そして、前者は、「災害対応マニュアル」「異校種間・地域連携」「避難所運営」の3つの視点にもとづいた市の防災計画のモデルプランをまとめ、後者は、小・中学校で活用できる「防災学習シート」(60時間分のワークシートからなる冊子)を作成しました。さらに、それぞれの発達段階(小学校の低・中・高学年、中学校)において、どの場面(教科・道徳・総合的な学習など)で、どのような防災教育が実施可能なのかを「防災学習マトリックス」に示し、年間を通じて効果的な防災教育を行うことができるようにしました。

また、防災主任研修会において、地震発生2時間後までを想定して、保護者が子どもの引き渡しを要求した、子どもがフラッシュバックでパニックを起こしたなどのシナリオを作成し、ロール・プレイングによって、限られた情報をもとにその場で適切な判断をする訓練を行うなど、教員の研修にも力を入れています。地区ブロックごとに防災研修会も開催しているそうです。

気仙沼市では、「地域のつながり」と「継続」という2つの要素を大切にしながら、防災教育を構築し、「生きる力」「生き抜く力」「生き残る力」の育成を目指しています。

## 講演2

「東日本大震災 ESD としての防災教育  
本校の現状について」

畠山友一先生(気仙沼市立唐桑小学校 主幹教諭)

畠山先生は、小学校という現場で東日本大震災とその後の防災教育に関わってこられた立場から、

- (1) 3.11 当日から翌日の動き
- (2) 被災直後の学校運営
- (3) 防災・安全についての主な課題
- (4) 唐桑小学校の ESD としての防災教育の現状

について具体的に話してくださいました。

海からほど近い唐桑小学校では、東日本大震災の際、学校の前の道路まで津波が迫ってきましたが、最初に避難した校

庭から、より高台にある二次避難所、三次避難所へと移動し、児童・教職員ともに全員無事でした。しかし、実際に震災対応をしていく中で、「防災マニュアルの改訂」、「避難訓練の改善」、「保護者・地域・専門機関との連携」が主な課題として浮かび上がってきたそうです。例えば、防災マニュアルに避難所の開設や子どもの心のケアに関する項目を追加する必要がある、防災訓練は、親や先生がそばにいない登下校時も含め、さまざまな想定にもとづいて行なうべきである、といったことでした。

そうした経験に基づき、現在、唐桑小学校では、「児童の安全確保とこれから起こるであろう PTSD も含めた心のケアを最優先に考える」「総合的な学習の時間を充実させ、カリキュラムを改訂しながら ESD と結びつけて実施する」「教科授業の中に防災・安全にかかわる教育を取り入れて充実を図る」という3つの方針にもとづき、防災教育が進められています。



その柱となっているのが平成16年から総合的な学習に取り入れられた牡蠣の養殖活動です。牡蠣筏(いかだ)を持っている小学校は全国でも珍しいそうですが、震災の津波で筏を失い、それから1年ほどは、子どもたちは海に近づくことができませんでした。しかし、こ

のままではいけない、子どもたちの中に自然と共に生きる気持ちを育てたいという、地域の人々や教職員の熱い思いと、全国からの支援により新しい牡蠣筏が製作され、活動が再開されました。

現在はこうした活動に各教科や学級活動の防災に関する内容を抽出して結び付け、「ESDカレンダー」作りを進めています。災害時に「誰ひとり命を落とすことがないよう最善を尽くす」とともに、「持続可能なふるさと唐桑」復興の担い手となる子どもを育てていけるよう、地域と学校をあげて取り組んでいるとのことでした。

## まとめ

「海と生きる」を復興のテーマに掲げている気仙沼市では、ESD の視点を取り入れた防災教育が実施され、一步一步着実に成果をあげています。

しかし、二人の先生方が強調されたのは、防災教育の捉え方や実施方法は、全国共通ではなく、その地域や学校の特色に合わせて考えられるべきものであるという点でした。気仙沼市のやり方がそのままお茶の水女子大学や附属学校園に当てはまるわけではありません。気仙沼市の事例を1つの参考として、「お茶の水バージョン」の防災教育を構築し、継続していくことが大切なのです。



夏休みに2泊3日で気仙沼市を訪れた学生からの報告もありました(図3)。宿泊先の民宿のおかみさんは、津波でひどい有様になっていた家に片付けの手伝いにやってきた大学生ボランティアの笑い声を聞いた時に、家がまるで生き返ったように感じられたと話され、「あのとき学生さんから元気をもらったから、来てくれるだけで嬉しい」と声をかけてくださったそうです。学生たちは2組に分かれ、唐桑幼稚園の保育補助と唐桑小学校の学習支援、学校環境整備(図書館の整備・校庭の草取り)などを行いました。子どもたちとの交流を通して、その素直さ、純粋さに感動する一方、これからのことや震災後の子どもたちにとっての「海」について考えさせられる場面もあったそうです。

研修会では、今後も「包括的連携協定」に基づき、附属学校園も含めて交流・協力を図っていくことが改めて確認されました。



図3

被災地支援プロジェクト2013年度 夏の学校

◆参加メンバー

文教育学部 地理学コース	水野 勲 先生
教育科学コース	富士原 紀絵 先生
人間発達教育研究センター	菊地 知子 先生
ファカルティ支援チーム	柴田 正造 さん
文教育学部人間社会科学科	1年生9名、3年生1名
生活科学部人間生活学科	3年生4名
人間発達科学専攻 保育・児童学領域	院生2名

◆全体スケジュール

7月31日	気仙沼着 気仙沼復興商店街で昼食 被災地遺構・施設めぐり 宿泊:民宿「唐桑御殿 つなかん」(8月1日も)
8月1日	唐桑幼稚園・唐桑小学校での活動
8月2日	唐桑幼稚園・唐桑小学校での活動 気仙沼発

注\*「包括的連携協定」

お茶の水女子大学は、2011年11月に「東日本大震災被災地支援プロジェクトチーム」を立ち上げるとともに、「東日本大震災の被災地に対する支援方針」を定めました(図4)。この方針に基づき、気仙沼市のほか、岩手県教育委員会、岩手県宮古市、釜石市、大船渡市、大槌町、山田町、野田村の各教育委員会と「包括的連携協定」を締結し、津波と地震で破壊された現地の小・中学校の理科教育支援活動など、多様な取り組みを展開しています。(参照:東日本大震災 お茶の水女子大学の対応 [http://www.ocha.ac.jp/news/eq\\_h230628.html](http://www.ocha.ac.jp/news/eq_h230628.html))

※図1~3は当日の資料を基に作成

(編集協力:お茶の水女子大学学校教育研究部)

図4

東日本大震災の被災地に対する支援方針

- 1 被災地のニーズに合致した効果的な支援であること。
- 2 大学が組織として行う支援であり、お茶の水女子大学の特性を生かした支援であること。
- 3 中長期的な展望のもと、計画的な支援を行うこと。
- 4 学生が参加する場合は、ボランティアな意志を尊重し、安全を図るとともに学生の成長に資する支援を行うこと。

男女共同参画促進事業のご報告

「女性のためのパソコン教室 スキルアップで仕事に強くなるう！」

男女共同参画週間(6月23日~29日)に、文京区と共催で、女性を対象としたパソコン教室を実施しました。

【日時】《基礎コース》2013年6月18日(月)・19日(火)  
《応用コース》2013年6月25日(月)・26日(火)  
13:30~16:30

【会場】文京区教育センター(文京区春日1-9-21)

【講師】西村文恵氏(株式会社ハッピーコム)

【受講料】1,500円(テキスト代を含む)

【主催】文京区男女協働・子ども家庭支援センター担当課  
お茶の水学術事業会

【参加】《基礎》19名(欠席1名)、《応用》18名(欠席2名)

◆主な講習内容

基礎	1	【Word】基本操作と案内状の作成
	2	【Excel】基本操作と請求書の作成
応用	1	【Word】名刺の作成 【Excel】グラフ作成・名簿作成(データベース)
	2	【Power Point】基本操作とプレゼンテーション資料作成

このセミナーは今年で6回目となりますが、受講する方のニーズに応えられるよう、毎回少しずつ内容を変更しています。今回は、2つのコースに分け、各2日間で実施しましたが、「もう少し日数を増やしてほしい」という要望がある一方で、「短期なので参加しやすい」との声もありました。また、受講生・講師・アシスタントがすべて女性という環境も、「質問などがしやすい」と好評でした。



## 夢のつばさプロジェクトニュース

「夢のつばさ♥プロジェクト」は、東日本大震災で親を失った子どもたちを長期にわたって支援することを目的として、お茶の水学術事業会を中心にNPO法人4団体の協力によって進められている事業です。

このプロジェクトは、立ち上げ以来、数百名の方々から温かいご支援を賜っています。毎年続けてご寄付をくださる方も多く、また毎回のキャンプには、スタッフとして多くの方々貴重な時間を割いてボランティア参加して下さいます。東北からやってくる子どもの送迎を毎回担当して下さる方や、豊富な人脈を駆使して企画作りに参加して下さる方、勤務をやりくりして駆けつけて下さる看護師さん、会計業務をお手伝い下さる方や、キャンプ中の緊急移動手段のためにと車を用意して参加くださる方など、様々な方に支えられています。ボランティアの学生達も、毎回、心を込めて活躍してくれています。

## 2013年夏キャンプ

【実施期間】2013年8月6日～9日

【開催地】(株)ブリヂストン保養所奥多摩園(青梅市)

【参加内訳】子ども23名、学生ボランティア27名、  
その他スタッフ・協力者16名

8月6日	開会式、施設探索宝探しゲーム
8月7日	敷島製パン埼玉工場、がん研究会有明病院見学
8月8日	朝の勉強会・レポート作成、運動会・水遊び、 音楽会(フルート四重奏・ピアノ)
8月9日	閉会式、写真スライドショー、保養所の方々へ御礼

本活動も3年目となり、東北3県の教育委員会や児童相談所等との連携も非常に順調で、すぐに20名の募集人員を上回る応募がありました。今回は思い切って27名を受け入れることを決めて準備しましたが、直前になって学校行事による兄弟のキャンセルなども出て、23名(小1～高2)での催行となりました。

参加する子どもたちは、活動当初に比べて表情も言動も格段に明るくなりました。今回はキャリア教育の一環として、

工場と病院の見学を盛り込みました。社会にはどのような仕事があるのか、自分の成長の先を心に描いて、日常の学びへの励みとして欲しいと企画しています。

埼玉県比企郡川島町にある敷島製パン工場では、工場長はじめ多くの社員の方たちが出迎えてくださり、衛生面への厳しい取り組みや、機械化と経験が双輪となっておいしいパンを作っていることを懸命に伝えてくださいました。がん研有明病院では、患者さんを治療し、癒すために、事務業務から医療まで、多くの職種のスタッフがチームとなって働いていること、そしてそれらの資格取得のための道筋など、わかりやすく心温まる解説がありました。普段入り込むことのできないバックヤードの見学もあり、子どもたちだけでなく、学生や大人にとっても貴重な体験となりました。

その他、奥多摩の豊かな自然を背景に、宿舍の広い庭で水遊びや運動会、フルートとピアノの演奏会など、心と体を十分に楽しませる企画も行いました。子どもたちは、口々に「また来るね」と心を残して帰って行きました。スタッフ一同、子どもたちが自らを育て、心豊かな人に成長していけるよう、今後も寄り添っていきたくないと決意を新たにしています。

大学生たちは、早くも冬のキャンプに向けて、集会の日程を組んで張り切っています。皆様の一層のご支援をお願い申し上げます。

(夢のつばさ♥プロジェクト)



◆ 病院見学



◆ 音楽会

【口座】三井住友銀行 大塚支店(店番号227) 普通 1284200

【名称】特定非営利活動法人お茶の水学術事業会 理事長 平野由紀子(この口座は、夢のつばさ専用口座となっております)でご協力いただける範囲でご寄付賜りますれば幸いです。ご芳名、ご住所(連絡先)を下記までお知らせくださいませ。領収書をお送りいたします(恐れ入りますが、税金控除の対象にはなりませんので、あらかじめご了承ください)。連絡先:夢のつばさ事務局 滝澤公子 TEL&FAX:03-5978-5362 Email:tsubasa@npo-ochanomizu.org

## 共催講演会のご報告

# 「子育てに『もう遅い』はありません ～心と脳の科学からわかる親が本当にすべきこと～」

講師 内田伸子先生（お茶の水女子大学名誉教授）

【日時】2013年5月11日（土）14:00～16:00

【会場】ときわプラザ 2F ときわホール（男女共同参画交流センター フレアとくしま）

【主催】桜蔭会徳島支部、女性のスペース〈ハッピーミリアム〉

【共催】お茶の水学術事業会、フレアとくしま 100 講座

【参加費】無料 【参加人数】191名



多様な価値観の時代であって、氾濫する子育て情報に迷い、周囲からの期待や、「こうあるべき」との自らの理想像にプレッシャーや焦りを感じている親たち、そんな子育て中の親たちを応援し、社会全体で子どもたちの成長を見守り、育みたいとの思いから、発達心理学・認知心理学・言語心理学・幼児教育学の分野でご活躍の内田伸子先生をお迎えして、子育て講演会を企画しました。

子育て・孫育て真最中の人や、子どもの教育・支援の仕事に携わっている人、児童学科の学生など、191名の聴衆が集まりました。内田伸子先生の知名度は徳島でも高く、開催日2週間前には満席状態になりました。会場のときわプラザ（徳島県男女共同参画交流センター）に常設の託児室が定員いっぱいとなり、子育て中の人々が参加しにくい状況となったので、保育士のアルバイト3名を頼み、別室に託児室を増設して参加希望を受け付けました。また、児童学科学生の団体申込があり、ホールの定員を大幅に超えることになったので、隣の学習室に講演をTV中継し、受講してもらうことにしました（下の写真）。

講演内容は、

- ①生きる力とは想像力であり、想像力の発達には乳幼児期から五官を使った豊かな体験が不可欠である。
- ②子どものウソは嘘ではない。
- ③子どもの能力を伸ばすためには、幼児期に子どもの主体性を大事にしてかかわることが重要である。



という3つのテーマについて、科学的な調査研究結果に基づき、最近の脳科学の知見も取り入れて、分かりやすくお話しいただきました。先生の優しくゆったりとした、けれど説得力ある語り口に聴衆は引き込まれ、大変密度の濃い2時間となりました。講演後には、時間を延長して質問にも丁寧に答えていただき、アンケートにも、「子育ての不安が消えて、励まされた。」

「強制型のしつけスタイルになっていたことに気づかされた。今日から軌道修正したい。」「データに基づいていて、説得力があった。」「また、このような機会があるとよい。」などの感想が寄せられました。

講演会の様子は地元テレビ局（四国放送）の夕方ニュースでも伝えられました。徳島新聞には後日、家庭欄に講演の要約が掲載され、来場できなかった人にも広く知ってもらうことができました。

また、託児室を増設しても受け容れられる人数は限られており、他の受講者のことも考えて子ども同伴の受講は遠慮してもらったので、子育て中の人たちの受講希望をお断りすることにもなりました。このため内田先生の許可を得て、ケーブルテレビ徳島による撮影を依頼し、後日、講演内容が放送されました。視聴地域は徳島市内に限られますが、子育て中の保護者に家庭でも見てもらうことができました。

内田先生との出会いが、受講された皆さんにとって有意義な時間となったことを大変うれしく思います。共催してくださったお茶の水学術事業会ほか、関係の皆様は心より御礼申し上げます。

（桜蔭会徳島支部長 庄野ゆかり）

## お茶の水ブックレット第9号

### 「子どもは変わる・大人も変わる －児童虐待からの再生」 内田伸子 著



深刻化する「児童虐待」を生涯発達心理学の視点から分析した、ビギナー向けの1冊です。

★ご注文は下記まで【1冊 500円・送料別】

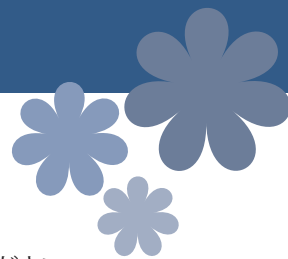
お茶の水学術事業会事務局

TEL&FAX: 03-5976-1478

E-mail: info@npo-ochanomizu.org

※お茶の水女子大学生協、Amazonでもお求めいただけます。





# お茶の水女子大学 イベント情報

2013年10月以降に開催される各種イベントのお知らせです。詳細は、各主催者にお問い合わせください。

期日	イベント・講座名	参加費	備考
2013年10月15日(火)～11月8日(金) 12:30～16:30 ※休館日:10月20日(日)、27日(日)、11月4日(月)	お茶の水女子大学歴史資料館企画展示 「日本初の女子大学生誕生 100年 —黒田チカと牧田らく—」 大正2年、東北帝国大学が初めて女性に門戸を開き、東京女高師からは黒田チカと牧田らくが入学しました。日本初の女子大生誕生から100年の記念の年に、その経緯や二人の人物像とあわせて、「女性リーダーの育成」「女性研究者支援」といった、現在の本学の取り組みについても紹介します。	無料	【会場】歴史資料館(大学本館121・136室) 【主催】お茶の水女子大学 歴史資料館 【詳細】 <a href="http://archives.cf.ocha.ac.jp/info_kikaku_2013.html">http://archives.cf.ocha.ac.jp/info_kikaku_2013.html</a> 【問合せ】お茶の水女子大学 図書・情報チーム 情報基盤係 〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1 E-mail: shiryo@cc.ocha.ac.jp ※特別公開期間以降は、事前にお申込みいただければご覧いただくことができます(休館日、都合による非公開期間を除く)。
2013年10月23日(水) 15:30～17:30	グローバル人材育成推進事業 第5回 女性のグローバルな活躍のためのワークショップ 【講師】黒田玲子氏(お茶の水女子大学OG、東京大学名誉教授) ノーベル賞受賞者を輩出したことでも知られる「ロレアル—ユネスコ女性科学賞」受賞(2013年)の栄誉に輝いた、化学者の黒田玲子先生をお招きし、女性が研究職に進むのが難しかった時代をどのように乗り越えてこられたかお話しいただきます。	無料	【会場】お茶の水女子大学本館306室 【主催】グローバル人材育成推進センター 【詳細】 <a href="http://www.ocha.ac.jp/intl/ocgl/global/report.html">http://www.ocha.ac.jp/intl/ocgl/global/report.html</a> 【問合せ】E-mail: wgws@cc.ocha.ac.jp ※事前の申し込みは不要です。
2013年11月16日(土) 9:15～17:30 (途中入退場自由)	グローバル人材育成推進事業 第1回 GREAT-Ocha ～学部生による英語での研究発表シンポジウム～ テーマ「異文化同士の接点で起こること」 本学の学生のほか、米国と都内の女子大学からも参加し、国際的な意見交換の場を目指します。(すべて英語で行われます。同時通訳なし)	無料	【会場】お茶の水女子大学本館103室 【主催】グローバル人材育成推進センター 【詳細】 <a href="http://www.ocha.ac.jp/intl/ocgl/global/great_ocha.html">http://www.ocha.ac.jp/intl/ocgl/global/great_ocha.html</a> 【事前申し込み】聴衆希望の方は、E-mail: great-ocha@cc.ocha.ac.jp まで、お名前・所属・連絡先をお知らせください。追って返信いたします。
2013年11月16日(土) 13:30～16:00	第3回お茶大保育フォーラム: 「幼稚園の日」特別フォーラム 「幼稚園草創期の保育者に学ぶ —初代保姆 豊田英雄の挑戦—」	1,000円	【会場】お茶の水女子大学本館306室 【主催】お茶の水女子大学 ECCELL 【問合せ・申し込み】 お茶の水女子大学 ECCELL Tel: 03-5978-5949 E-mail: nyuyoji-info@cc.ocha.ac.jp
2013年10月31日(木) 11月28日(木) 12:30～12:50 12月25日(水) 12:30～13:00 2014年1月20日(月) 12:30～12:50	図書館ミニコンサート & クリスマスコンサート 演奏者:音楽表現(学)コース学生 ベヒシュタイン社製ピアノのコンサートです。	無料	【会場】附属図書館1階ラウンジ 【詳細】附属図書館のHP「コンサート情報」をご覧ください。 <a href="http://www.lib.ocha.ac.jp/concert.html">http://www.lib.ocha.ac.jp/concert.html</a> 【問合せ】E-mail: lib-piano-g@cc.ocha.ac.jp ※事前の申し込みは不要です。
2014年1月21日(火) 16:45～19:00	平成25年度 A-WIL シンポジウム 「女性、仕事、リーダーシップ —Make a Difference 的生き方の実践—」(仮) 女性が責任ある地位に就く際に感じる壁や困難について、それらを可視化、共有化しつつ、自ら一歩踏み出すことの重要性について考えるシンポジウムです。 パネリストとして、現在多方面でご活躍中のお茶の水女子大学OGの方々にご登壇いただきます。	無料	【会場】お茶の水女子大学本館306室 【主催】お茶の水女子大学 【問合せ】 お茶の水女子大学リーダーシップ養成教育研究センター E-mail: info-leader@cc.ocha.ac.jp 【申し込み方法】 リーダーシップ養成教育研究センター HP に掲載予定 <a href="https://crdeg.cf.ocha.ac.jp/ocha2/Leadership/awil">https://crdeg.cf.ocha.ac.jp/ocha2/Leadership/awil</a> 12月2日(月) 受付開始予定
2014年2月2日(日) 10:00～12:30(予定)	「グローバル女性リーダーへの道 —多様性へのしなやかさはいかにして成立するか—」 (仮案) 女性リーダーとして国際的に活躍するための条件について有識者をお招きしてパネルディスカッションを開催します。 現在、パネリストとして、池上彰さん(東京工業大学教授・ジャーナリスト)、小林りんさん(Founder and Chair of the Board: International School of Asia, Karuizawa)、佐々木かをりさん(株式会社イー・ウーマン代表取締役社長)の3名を予定しております。	無料	【会場】お茶の水女子大学大学講堂(微音堂) 【主催】お茶の水女子大学お茶大アカデミック・プロダクション、リーダーシップ養成教育研究センター 【問合せ・申し込み】 お茶の水女子大学お茶大アカデミック・プロダクション E-mail: docca-info@cc.ocha.ac.jp ※メールにて次の情報を添えてお申し込みください。 <input type="checkbox"/> 必須情報: 氏名・E-mail・Tel <input type="checkbox"/> 任意情報: 年齢・職業・興味・関心

## お茶の水女子大学 第64回微音祭 11月9日(土)10日(日)

今年度の微音祭のテーマは  
**Girls be Keen on "Kiin祭" ~お茶大にアツくなれ! ~**

テーマにもあります「keen on」の通り  
来場者の方にお茶大・微音祭の魅力を感じて頂くため  
学内生から盛り上がる学園祭を目指しております。

皆様のご来場を一同心よりお待ちしております!!



充実したラインナップのステージ  
企画や模擬店はもちろん、毎年  
恒例の受験生企画や縁日、指圧  
等の企画も満載。  
どのような年代の方にも楽しんで  
頂ける内容となっております。

詳しい情報につきましては  
微音祭公式サイトやFacebookページ, Twitter等をご覧ください。  
\*「第64回微音祭」でご検索下さい!

## 講演会のご案内「教育格差を考える」

- 講師：耳塚 寛明 氏  
お茶の水女子大学副学長 文教育学部教授 (教育社会学)
- 日時：2013年12月7日(土) 14:00 ~ 16:00
- 会場：お茶の水女子大学 本館 306号室
- 参加費：無料
- 主催：お茶の水地理学会 ● 共催 お茶の水学術事業会
- 申し込み方法：葉書か FAX か Email で下記まで  
住所・氏名・電話番号・卒業生の方は卒年と卒業学科を記入  
〒112-8790 文京区大塚 2-1-1 お茶の水女子大学 文教育学部  
地理学教室 FAX：03-5978-5185 Email：chiriog@yahoo.co.jp
- 締め切り：10月31日(消印有効)  
どなたでもお申し込みいただけますが、定員を超えた場合は抽選  
を行い、葉書で可否を連絡いたします。

## お茶の水学術事業会事務局よりお知らせ

お茶の水学術事業会では、定款に定める「教育・研究活動に関する事業」の一環として、「講演等の共催事業」「学術・調査・研究・教育等の活動運営支援事業」を行っています。事業の詳細や申請方法については、お茶の水学術事業会のHP (<http://www.npo-ochanomizu.org/>)「共催・助成金」をご覧ください。

## ライフサイエンスから生まれたスキンケア

細胞生物学の最先端研究の中で室伏教授が発見した新成分 cPA (シービーイー) は、あなたの体内のヒアルロン酸を増やして、本来あるべき良好な状態に導きます。  
雅Graceは cPA を配合した世界初のスキンケアです。

室伏きみ子 (お茶の水女子大 教授) 監修

新成分  
**cPA**  
配合



売り上げの一部は、  
大学へ寄附されます

雅Grace 定価 (税込)

グレイス化粧水 (150ml)	6,300円
グレイス乳液 (100ml)	7,350円
グレイス美容液 (30ml)	9,450円

※写真は、グレイス化粧水 150mLです。

肌の  
ヒアルロン酸  
増加

保湿  
成分

コラーゲンの  
働き  
強化

美しく見える肌ではなく、ほんとうに美しい肌へ。  
**雅Grace —グレイス—、誕生。**

販売元: SANSHO株式会社 TEL 03-5203-0716 WEB <http://c-pa.jp/>

なお、お茶の水学術事業会で、特別価格でお取り扱いをしております。  
詳しくは、本会事務局まで お問い合わせください。

E-mail : [info@npo-ochanomizu.org](mailto:info@npo-ochanomizu.org) TEL & FAX : 03-5976-1478

## お茶大ゴルフ 好評発売中!!



- 6袋(計12枚) 入
- ばにら・ちょこ・いちご味
- 定価 600円 (税込)
- 発送も承っております (送料はお客様負担となります)。

お茶の水ブックレット・お茶大ゴルフのご注文はお茶の水学術事業会事務局まで  
E-mail : [info@npo-ochanomizu.org](mailto:info@npo-ochanomizu.org) TEL & FAX : 03-5976-1478

## 編集後記

大震災の経験を踏まえ、「海(=自然)」と共に生きることを前提に進められてきた気仙沼市の防災教育には、学ぶことがたくさんありました。附属学校園と大学の教職員、学生、院生が一堂に会して、こうしたお話を伺い、意見交換をし、共に考えていくことは、とても意義があることだと思います。その一方で、防災教育においても各家庭での取り組みが欠かせないと感じました。

## 広告募集

このページに広告を掲載しませんか? 次号は2014年2月に2500部発行予定です。会員の皆様はじめ全国の公共機関などに配布しています。広告料金は、1回につき20,000円。詳しくは下記までお問い合わせください。

## 事務局

**OPEN 月~金 10:00 ~ 16:00**  
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 お茶の水女子大学 理学部3号館 204  
TEL&FAX 03-5976-1478 E-mail : [info@npo-ochanomizu.org](mailto:info@npo-ochanomizu.org)  
<http://www.npo-ochanomizu.org>

※会員の方は、お問合せの際、会員番号をお知らせください。会員番号は封筒の宛名ラベルに印字してあります。



◆事務局所在地  
東京都文京区大塚2-1-1  
お茶の水女子大学  
理学部3号館204

## ◆交通機関

地下鉄 丸の内線  
茗荷谷駅から徒歩7分

地下鉄 有楽町線  
護国寺駅から徒歩8分

都バス  
大塚2丁目バス停すぐ